

科目名	教育学特殊研究	担当者	キタノ アキオ 北野 秋男	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義は「世界の現状を理解し、説明する力」を養い、古今東西の多様な文化や社会について豊かな想像力と理解力をもつことを目指す。また、「論理的・批判的思考力」も養うことも目的とし、学問研究を通して人間・社会を科学的に認識し、批判的に分析する能力を身に付ける。最後に、「豊かな教養・知識に基づく高い倫理観」も身に付ける。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】上記の講義目的を理解した上で、教材を丁寧に読み、課題に適切に応える知識と技能を求める。また、教材を「論理的・批判的」に読む力を身に付け、「問題発見・解決力」を育成する態度や習慣を身に付ける。</p> <p>【行動目標（SBOs）】一次資料を丁寧に読み進める「挑戦力」を身に付け、自ら考え、分析し、文章化する訓練を行う。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】履修者は、まずは基本教材を丁寧に読み進め、自らの考えや意見をまとめる。その上で、関連文献、参考資料なども読み、課題に深く迫る方策を検討する。特別研究指導、もしくは履修者同士で、グループ討論などを行い、他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えるといった「コミュニケーション力」も育成する。</p> <p>【学修方法（LS）】レポート提出を求める。何回か文章を推敲し、適切な文章にまとめる。草稿段階で何回か修正点を求めるが、その際には謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高める省察力を育成する。最も重要な点は、求められている課題に対して、自らの明確な意見、深い思索を反映した文章になっているか否かである。また、参考文献など挙げる際にも正確な情報を提示して欲しい。</p>		
スケジュール	<p>提出期日は、manaba-folio ならびに学事記載のとおり。通年 30 コマ分（半期 15 コマ分）の内容については manaba にて掲載予定。ガイダンスでは、科目の内容、履修のポイントなどを説明する</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。
	平常評価	0%	メールのやりとりの回数など多少は考慮します。
履修者への要望	<p>指定した参考図書は人間の内面形成（人格形成）に言及した研究である。可能であれば、一読してもらいたい。レポートは、タイトルを付けて章（節）に区分し、最後に参考文献も明示すること。枚数は、最低でも4枚以上。草稿を提出して頂ければ、何度でも問題点の指摘を行う。面接を希望する学生がいれば、事前連絡を頂ければ、面接も行う。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 田中智志著 教材名： 『社会性概念の構築』東信堂 3,990円
	19世紀末から20世紀にかけて構築されるアメリカの進歩主義教育思想を支える「社会性概念」の意味内容を理解すること。とりわけ、アメリカの社会構造の変容を理解しながら、ブランボー、カウンツ、デューイの進歩主義教育思想を中心に考察すること。日本では「子ども中心主義」（子どもの自然性・自発性）と理解されていた進歩主義教育思想を異なる視点から理解し、新たな知見を得てほしい。
参考図書	田中智志『人格形成概念の誕生』東信堂、2005年（3,600円）
履修上のポイント	アメリカの進歩主義教育思想の形成過程を思想的に理解すること。とりわけ、進歩主義教育思想を支える「社会性概念」の意味内容を理解すること。合わせて、教育思想史研究の視点の置き方、分析の仕方など研究方法上の問題にも着目すること。「子ども中心主義」という既存の評価を覆す筆者の研究方法を学ぶこと。
レポート課題 1	（1）「序章」と「終章」を読んで、本書の課題と結論を考察すること。アメリカの進歩主義教育思想の思想的研究を行う際の目的、課題、研究方法、先行研究批判などを参考としながら、先行研究とは異なる本書の視点を考察すること。 留意点： 研究の目的、方法、課題の設定なども学ぶこと。
レポート課題 2	（2）アメリカの社会構造の変容を理解しながら、ブランボー、カウンツ、デューイの進歩主義教育思想を「社会性概念」を中心に考察すること。第2章から第4章まで熟読すること。第1章は、読まなくてもよい。 留意点： 分析の仕方、一次史料の使い方なども学ぶこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 北野秋男編著 教材名： 『現代アメリカの教育アセスメント行政の展開』東信堂 5,040円
	現在、我が国のみならず世界的に学力向上政策が教育改革の中心テーマになっている。本書は、現在のアメリカの州統一テストによる学力向上政策の理論と実態を解明したものであるが、その際の主要な視点は教育内容や学力達成目標としての「スタンダード」、教育政策の説明責任や結果責任を実施主体に求める「アカウンタビリティ」、設定されたスタンダードを評価する「アセスメント」である。現代のアメリカのテスト政策を理解し、我が国の学力向上政策のあり方も検討したい。
参考図書	北野秋男他編『アメリカ教育改革の最前線』学術出版（2012年）、北野秋男『日米のテスト戦略』風間書房（2011年）、大桃敏行編『教育改革の国際比較』ミネルヴァ書房（2007年）。
履修上のポイント	本書の独創的な点は、90年代以降のアメリカ教育改革における学力向上政策の理念的・政策的文脈を整理しながら、全ての児童・生徒の学力を測定・評価するシステムとして機能するテスト政策の理念と実態を解明した点にある。一方、我が国でも2007年からの「全国的な学力テスト」によって、学力向上政策が教育改革の中心テーマとなっている。アメリカの教育改革の動向を概観することは、我が国の学力向上政策のあり方を検討する上で参考となる。なお、日本のテスト政策については参考図書を参照してほしい。
レポート課題 1	（1）アメリカの教育改革とテスト政策の動向を「スタンダード」、「アカウンタビリティ」、「アセスメント」を中心に概観すること。特に、連邦政府の教育改革の動向に注目すること。 留意点： 序章から第2章、第11章を熟読すること。アメリカの教育改革とテスト政策の動向をキーワードを中心に理解すること。
レポート課題 2	（2）マサチューセッツ州の州統一テスト「MCAS」テストの内容とテスト結果を用いた教育政策（学区・学校のランキング化、教員政策、教育財政改革、バイリンガル教育政策など）の実態を理解すること。 留意点： 第3章から第9章までを熟読すること。